

30日ハイツで
すわこ文化村

「鬼に訊け」上映会

宮大工・西岡常一の ドキュメンタリー映画

千年生き抜く 寺院建築から 震災後に思いを

飛鳥時代から受け継
がれてきた寺院建築の
技を後世に伝え、「鬼



と恐れられた宮大工・西岡常一（1995年没）。西岡の仕事や生き様を取り上げたドキュメンタリー映画「鬼に訊（き）け」上映会は、30日（日）に岡谷市長地権現町の諏訪湖ハイツで開く。

良質な文化イベントを通じて、すわこ文化村」（毛利正道代表理事）の第36回企



毛利代表から呼び掛ける来場を手にする

画。

「鬼に訊け」（上映時間88分）は西岡を追い続けた山崎佑次監督が、日本の心の復興を願う「祈り」のドキュメンタリーとして、東日本大震災後の昨年完成させた。「千年の檜（ヒノキ）には千年のいのちがある」「木は鉄より強し」と語り、

法輪寺三重塔、薬師寺

金堂・西塔の再建などを手掛ける匠（たくみ）の姿や関係する人々のインタビュから、千年先に命を吹き込んでいく日本人のいしえの技や英知を浮かび上がらせる。

代表は「戦後の大量生産、大量消費の行き着

く先が原発事故だった。災害列島を生き抜いてきたいにしえの建築は、火事で燃えることはあっても地震では倒れなかった。ものづくりの魂やきずなを見つめ、大震災後の『文明』のあり方をも示唆している」と話し、単純に匠の技を学ぶ角度からも楽しめると大勢の来場を呼び掛けている。

参加費は前売り・予約千円、当日は1200円（中高生は500円）。諏訪湖ハイツ中3階のコンベンションホールで午前10時、午後1時半、同5時の3回上映する。

予約や問い合わせは、すわこ文化村（電話080・1040・7463）まで。